



# SDGs×ESD レポート

Vol. 1

発行：NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）

## ■代表からのメッセージ

日本の ESD の取り組みは、2002 年のヨハネスブルグ・サミットで DESD を提唱した民間組織である ESD-J が政府のカウンターパートとして、協働で ESD を推進するといった特徴があり、他国に類のない先進的な取り組みでありました。

2015 年の国連持続可能な開発サミットで採択された SDGs（国連持続可能な開発目標）は、ESD が実現を目指した社会の在り様を、具現化したものです。

この目標を達成するために、世界の課題を自分事として捉え、行動する人を育む ESD は、SDGs 達成に向けたエンジンであり不可欠なものです。



ESD-J 代表理事 阿部治

DESD10 年の後継プログラムとして、具体的で実践的な GAP（グローバル・アクション・プログラム）が、ユネスコ世界教育会議で採択されスタートしました。初期の 5 年（2015-2019）を経て、今度は SDGs 目標と同じ 2030 年を目標年とした、新しい GAP が始まります。

本来 ESD は、包括的なアプローチに対する提唱であるにも関わらず、とかく教育の現場では主題として扱われてしまい、なかなか浸透しづらい側面がありました。

しかし、包括的な SDGs 目標が設定された今、ESD はすべての SDGs 目標達成に向けた原動力となる重要な役割を担っていることが明らかになりました。

ESD と SDGs は切っても切れないパートナーなのです。



ESD-J 代表理事 重政子

## ESD-J 活動 2019 年までの沿革

### ●国連

### ●国の政策

### ●NGO/ESD-J の活動

### ●企業・市民

#### ■提案・準備の期間（2002 年～2004 年）

●2002 国連総会にて採択

●2002 ヨハネスブルグ・サミットで日本政府と NGO が DESD を提案

●2002 ESD-J 設立準備会発足 ●2003 ESD-J 設立総会

●参加

#### ■国連持続可能な開発のための 10 年（2005 年～2014 年）

●2005 関係省庁連絡会議を内閣に設置

●2006 年 DESD 国内実施計画決定

●2006-2008 環境省の ESD 促進事業（14 モデル）

●ESD 国連フォーラム 2008 開催（国連大学）

●ESD 促進事業受託

●2009 UNESCO ボン会議（ESD 中間評価）

●2011 年 DESD 国内実施計画見直し

#### ■10 年キャンペーンの最終年（2014 年）

●UNESCO 世界大会（名古屋国際会議場）

●GAP on ESD の採択・開始

●ESD 世界の祭典

●ESD 世界の祭典

●ESD-J 政策提言

●ESD-J 政策提言

#### ■ポスト DESD・SDGs（2015 年～）

●国連 SDGs の採択

●2016 年 GAP 国内実施計画決定

●2016 ESD 活動支援センター立上げ

●2017 地方センター立上げ

●2017 地域 ESD 拠点登録開始

受託



### 地域 ESD 拠点は 75 拠点に！

ESD 活動支援センター

2018 年度における ESD 活動支援センターの主な活動は、地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）の量的拡大、質的拡充を目指すものでした。2017 年 11 月に登録を開始した地域 ESD 拠点は、2018 年度末には 75 拠点到まで拡大し、それぞれの活動を推進しています。2018 年 11 月/12 月に東京で開催された ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2018 では様々な拠点の活動を紹介することにより、地域 ESD 拠点に対する理解の促進を図りました。その他、2018 年度には消費者の賢い選択（エシカル消費）に関するセミナーの開催、海外通信員による海外の ESD の紹介などを始めました。



### 岡山市 ESD コーディネーター研修を開催

この業務は、岡山地域「持続可能な開発のための教育」推進協議会（事務局は岡山市市民協働局 ESD 推進課）からの委託業務です。「岡山 ESD プロジェクト 2015-2019 基本構想」の重点取組分野に掲げている「人材育成」の一環として行う「ESD コーディネーター研修」の 4 年目で、ESD-J は第 1 回目から継続して受託しています。2018 年度は、「実践事例から学ぶ ESD 企画書の作り方」をテーマとしました（実践事例は福祉関係を取りあげた）。受講生は約 20 名で、岡山市勤労者福祉センターを会場に行いました。研修は、3 回の集合研修（11 月 22 日、12 月 6 日、1 月 17 日）と個別相談会（12 月 14 日等）で構成しました。特に個別相談会は充実した成果物の作成、一人一人のスキルアップに大きく役立っていました。



### 『ジオパーク×ESD』ESD 車座トーク

開催日：2018 年 6 月 17 日(日)

総会終了後、ジオパークの専門家の方々をお招きし、ESD 車座トーク『ジオパーク×ESD』が開催されました。ジオパークは地域の自然や人材を活用した持続可能な地域社会づくりに取り組むプログラムの 1 つで、今年 4 月に「伊豆半島ジオパーク」がユネスコ世界ジオパークに認定されました。ジオパークは地質学的な価値だけを取り扱うのではなく、その土地の成り立ちやそこで形成されてきた人々の歴史や文化、食べ物や飲み水といった多様な側面を知り、持続可能な地域づくりを目指しています。ESD ではこれまで様々なテーマや手法で持続可能な社会について学び、イメージしてきましたが、地域における持続可能な開発の具体的な事例としてジオパークの活動はとても参考になりました。



### 『いきものげんき×わたしもげんき』 グリーンチャレンジデー 2018 in 新宿御苑

開催日：2018 年 9 月 29 日(土)、30 日(日)

今年も、ESD-J は、環境省環境教育推進室のブース出展の企画・運営を行いました。台風の影響もあり、2 日目の開催は中止となりましたが、あいにくの空模様にもかかわらず、多くの来場者の方が環境省環境教育推進室のブースを訪れて下さいました。今年、『いきものげんき×わたしもげんき』というテーマで、身近な買い物から生きものの繋がりを体感できる参加・体験型ワークショップの企画を行いました。毎日の買い物が、めぐりめぐって生態系に影響を及ぼしていることを学び、逆に生活者の消費行動から生き物の保全に影響を及ぼせる事を提案する展示を考えました。子供たちの大好きな動物など生きもののクラフトワークを通じて、子供も保護者も一緒になって生きものの生息している環境と自分の出来ることを考える場を提供しました。ボランティアスタッフとして参加してくれた大学生、ガールスカウト日本連盟の高校生～成人の方々、こどもエコクラブしろくまキッズのみなさんが、ブースの来訪者たちに丁寧に作り方を教えたり、好きな生きものについて話を聞いたりしながら楽しく生きものについて学び合いました。



### 『審査員 ESD-J 特別賞』

第 7 回イオン・エコワングランプリ

開催日：2018 年 12 月 8 日(土)

公益財団法人イオンワンパーセントクラブが主催する「学校でエコ活動をしている高校生のためのコンテスト」が開催されました。最終審査会と表彰式に ESD-J 理事 池田満之氏が出席し、審査員 ESD-J 特別賞に「岡山県立津山工業高等学校 工業化学科～竹の有効利用～」が選ばれました！

(受賞結果：<http://www.eco-1-gp.jp/topics.html>)



イオン 1%ホーム・レジより抜粋

### その他 会議

その他、理事会（第 1 回 5/29、第 2 回 6/17、第 3 回 9/22、第 4 回 2/10）、理事懇談会（6/17、.8/14、11/3、12/5）、2018 年度通常総会（6/17）を開催しました。







ESD-Jの活動を支援してくださっている会員企業に順にインタビューをしていく企画をスタートします。第1回は、日能研の高木幹夫代表です。年度初めの多忙な折、スケジュールを何とか割いて頂き、新横浜にある日能研本社ビルの「木の応接室」を訪問しました。DESD<sup>\*1</sup>を経て、SDGs<sup>\*2</sup>達成に向けたESDのアプローチの在り方と、日能研が育みたい生徒像についてお話し頂きました。

### (1)SDGs 目標に向けた ESD のアプローチ

日本の DESD は、ESD 活動の結果を成果として評価してしまつたために、多くの活動事例は生まれましたが、本来 ESD が取り組むべき「人づくりのプロセス」は、あまりハイライトされませんでした。改めて言うまでもなく、ESD は教育であり、そのもっとも重要なエッセンスは、起こった現象（結果）ではなく、人づくりのプロセスにある。

近年のアメリカの教育現場は、プロセスを評価する形成的評価（Formative Assessment）へ移行してきている。そうなくてはならない状況へと社会も変化している。ところが、日本の教育の世界では、受験システムにしても、相変わらず素点・得点が主流を占めている。

バブル以降、どんなに頑張っても前年比マイナスの中で頑張る社員を評価するしかない現実と向き合わされた企業は、結果による評価ではなく、プロセス評価へ視点を移行する機会を得た。しかし、学校社会は、そういった洗礼を受けないままに、現在を迎

えていることが起因している。

2014年にDESDが終わり、国連SDGsの波がやってきた。学校も企業も、目新しい頃はSDGsの取り組み番号を掲げて満足していた。実際にはどのゴールも容易に達成できるものではなく、様々な課題が複合的に絡んでいて、ホリスティックなアプローチからしか未来を切り開く道がないことに気づき始めている。

### (2)活動の中心にいる子供を育てる

日能研の強みは、いつでも方針を変更したいときに、変えることができる身軽さと、それに応えるスタッフの存在にある。それは、学習塾でありながら、単に望む学校に入学できる学力をつけるに留まらず、ESDの視点をもち続けているという自負がある。

日能研の卒業生たちが進学した先の学校において、勉強でトップクラスにいたら、それはそれで嬉しいと思う。けれども、それよりも生徒会活動や部活動等の学校生活の中心にいて活躍する子でいてほしい。そういう子ども達を育み続けることが、何よりも喜びとを感じる。



### 高木幹夫 プロフィール

日能研 代表取締役、日本の実業家。日本教育カウンセラー協会認定教育カウンセラー、MFA（Medic First Aid）インストラクター、UCLA ファウンデーション理事。

著書：『問題は、解いてはいけない。』（サンマーク出版）、『予習という病』（日能研共著）（講談社現代新書）他

\*1：ESDの10年：Decade of Education for Sustainable Development

\*2：Sustainable Development Goals

### ■編集後記

2019年は、ESD活動支援センターが立ち上がり、本格的な全国ネットワークによる活動がはじまります。元号が平成から令和に変わる今年度に、ESD-Jの会員ニュースレターを再開します。取り上げてほしい記事や、ご感想、ご意見等、どうぞ事務局までメールでお寄せください。



### 特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 201 T:03-5834-2061 F:03-5834-2062

◎会員募集中：正会員（10,000円）、準会員（3,000円）詳しくはWEBサイトをご覧ください◎